



# みちてる 会報 2024

特定非営利活動法人NPOみちてる / 尾道市山波町2987番地 / TEL&FAX 0848-46-0951  
E-mail npo2006@c.do-up.com / <http://www.npo-michiteru.jp.org>

## ご挨拶



特定非営利活動法人 NPOみちてる  
理事長 安部 昭一郎

平素より当NPOみちてるに格別のご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。

「令和」を迎えた2019年年末より新型コロナウイルス感染症が世界的に流行し、2020年よりは止むを得ずNPOに関わるすべての活動が休止に追い込まれることになりました。『世界の平和と繁栄に寄与する』という大きな目的を掲げているなかで、支援金送金以外の活動が何もできないというのは、たいへん心苦しいものでありました。

しかしながら、2022年にはコーラス部門が先んじて大阪の音楽祭に参加することができ、また昨年3月には国際交流の新たな試み（フィリピンスタディツアー）がスタートし、10月には4年ぶりに瑠璃茶会が再開されるなど、いよいよ本格的に活動ができるようになってまいりました。こちらも4年ぶりとなりますこの会報におきまして、改めて皆様にその詳細をお知りおきいただきたいと存じます。

引き続きまして、これまでの事業をブラッシュアップし、更にお役に立てる組織として活動してまいります。どうぞ、これからも当NPOみちてるへのご支援・ご協力を賜りますよう御願い申し上げます。



特定非営利活動法人 NPOみちてる  
常任理事 兼 国際交流担当理事 金光 浩行

この度、新任の常任理事として拝命いたしました金光浩行です。

私は、以前他のNGOで貧困に苦しむフィリピンやカンボジアでの教育支援活動にあたらせていただいております。そのスキルを活かし、国際交流事業を主に担当させていただきます。

「国際交流」とは、他国の人と交流することでお互いの国についてよく知ること、またはそのための活動を指す言葉です。「異文化交流」と呼ばれることもあります。私がNPOみちてるで目指す「国際交流」とは、まず異文化に触れ、その国の人々や国の状況（災害・紛争・貧困・人々の生活など）を知り、私たちがどう世界と関わっていけるのか？ということをお願いしたいと思います。そのためには、私たちが実際に世界に出向いて現地を知るためのスタディツアーなどの開催、また、留学生を招いてのお茶会、スタディツアーで繋がった現地の方を招聘しての現地報告会（チャリティーコンサート）の開催などを中心にチャリティー活動などを行い、世界の平和と人類の助かりに少しでも貢献できる活動になればと願っております。

このたびは、大役を仰せつかり身の引き締まる思いですが、使命を全うすべく、全力を尽くす所存でございますので、皆様方のご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

# 2023年 関西福祉大学フィリピン・スタディツアー

## 2月28日～3月5日

2月28日から3月5日、関西福祉大学フィリピン・スタディツアーを初開催しました。NPOみちてるが依頼されて開催するスタディツアーは、参加者一人一人に実際に体験(チャレンジ)してもらうことで、通常の海外旅行や他団体のツアーでは得られない、NPOみちてるにしかできないツアーにしたいとの願いから参加者にはできるかぎり参加・体験してもらうチャレンジ(企画)を用意し、特別なスタディツアーになるよう企画しています。

参加者は、大学生6人、職員及び講師2人併せて8人でした。ツアーへは、当法人常任理事が日本サイドのコーディネーターとして同行し、初日は、午後に関西空港を出発しマニラに無事到着。その後、フィリピンサイドのコーディネーター・渡辺尚美氏と合流し、参加者は初めて見る・食べるフィリピン料理を夜食に、空港からレストランまでの町並みを見て感じた感想や明日からのツアーへの期待を共有するいい時間を過ごしました。

### 2日目

2日目は、まず自己紹介をし、オリエンテーションとして渡辺氏からフィリピンの現状について聞かせてもらった後、マニラ最大の市場であるディビソリアへチャレンジ①としてフィリピンの乗り合いバスともいえるジブニーを乗り継いで移動し現地の庶民の足を体験しました。次に、チャレンジ②としてグループに分かれて英語を駆使し、フードコートでそれぞれに注文し昼食、そしてその後は、チャレンジ③として4日目に訪問する団体KSK (Kabataang Sambayanang kristiyyano)での企画のために、2グループでどれだけ値切って予算内でサンダルをKSKの人数分購入できるかというチャレンジを行いました。この市場は元々値段設定も卸値価格のため値引きが厳しい中、学生たちは一生懸命英語や身振り手振りでなんとか意思疎通をし、外国人という特性を生かして2グループとも1足100ペソ(約260円)まで値切り、チャレンジに取り組みました。次に、チャレンジ④として、タクシー配車アプリ(Grab)を使用して、現在地までタクシーを呼び、呼んだタクシーに乗車し、ホテルへ無事に帰れるか?というチャレンジを行い、日本でも経験のない初めての体験をしました。



## 3日目

3日目は、かつてのスモーキーマウンテンのふもとに建てられたSRDコンコウキョウセンター（保育園）を訪問し、支援地域を見学しました。まずチャレンジ⑤SRDコンコウキョウセンターで、子ども達と折り紙やパズル、絵本を英語での読み聞かせなどをして交流したのち、午後からはチャレンジ⑥SRDコンコウキョウセンターに通っている子どもの家を3軒訪問し、それぞれの暮らしぶりについてインタビューしました。



## 4日目

4日目は、スモーキーマウンテンの貧困家庭の子供たちを支援している団体KSKを訪問し、チャレンジ⑦先日市場で購入したサンダルのエピソード等をグループ毎に英語を使って紹介し、KSKのメンバーと交流しました。その後、チャレンジ⑧KSKの案内でスモーキーマウンテンに実際に登り、そこで暮らす家族を訪ね、生活の苦勞などを聞き、質問などインタビューをさせていただきました。



## 5日目

5日目は、フィリピンで最も近代的なマカティ地区に行き、歴史博物館で侵略と独立の歴史を学んだ後、チャレンジ⑨フードコートで今回は個人で好きな物を購入して昼食にしました。午後からは、外貨獲得のため開発が進められているエリアに出来たOKADA MANILAという巨大エンターテインメント型リゾートホテルを見学し、貧富の格差を実感して、スタディツアーを締めくくりました。



## 2023年 関西福祉大学フィリピン・スタディツアー 参加者の感想

「観光では絶対に経験できない体験をすることができ、テレビやスマホなどの画面上からでは感じる事ができないものを感じることが出来ました。「やらぬ後悔より、やる後悔」という言葉がありますが、コロナで制限をかけられ続けた3年間、私たちはその「やる後悔」、挑戦することさえもできませんでした。でも、その分、チャンスを逃したら次はいつそのチャンスが巡ってくるか分からないということも学べたと思っています。そのため、私は今回のフィリピンスタディツアーに迷うことなく参加しました。だからこそ見ている景色を絶対に見逃さないように6日間過ごしました。このような素晴らしい機会をつくってくださり本当にありがとうございました。この経験は私にとって財産になると確信しています。」

「フィリピンで過ごした6日間は新たな発見ばかりで、非常に充実した日々でした。貴重な体験をさせていただいて学んだことや感じたことがたくさんあります。貧しい生活を送っている人々も毎日を楽しみ、前向きに生活をしているように感じました。マイナスな印象を抱いていた私は現地の方々に非常に失礼だと思いました。実際に自分自身の肌で感じたからこそ生まれた感情なのではないかと思います。また、私たちの普段の生活があたりまえではないということを実感させられました。蛇口をひねって出てくる水が飲める。道路がきちんと舗装されており、安全に歩くことができる。明るく整った場所で安心して寝ることができる。私たち日本の生活があたりまえではないということを強く感じずにはいられませんでした。私たちが訪れたトンド地区やディビソリアという市場は、日本人が歩くと8割は何かに巻き込まれるということを知って驚きました。私たちはコーディネーターの方々のおかげで安全に歩くことができ、いろいろな体験ができました。何もなく安心して暮らせていることに感謝の気持ちを常に持って生活させてもらわなければならないということを感じ、あたりまえだと思っていることに感謝の思いをもつことが大切だということを勉強させられました。フィリピンでの6日間で多くのことを学び、感じる事ができました。

「また行きたい」という想いと共に、フィリピンのために、フィリピンの子どもたちのために何か力になりたいという強い気持ちが芽生えました。今の私にできることは限られているのかもしれない。まずは卒業後、体育教師となって今回学んだことを子どもたちに伝えていき、そして身近にできることから始め、微力ながらもフィリピンのためになるようなことをしていきたいです。最後に、このような素晴らしいツアーを計画してくださった方、このツアーを通して出会うことができた全ての方々へ感謝いたします。」

「フィリピンスタディツアーに参加できてとても良かったです。2023年がはじまってから間違いなく1番濃く、あつという間の6日間でした。私がフィリピンに行った感想は、街並みや文化の違いにもとても刺激を受けましたが、何よりも子どもたちのキラキラした目が印象に残っています。フィリピンでは、経済的な問題で学校に行けなかったり、進学するために勉強を頑張ったりといろいろな問題を抱えながら生活していると聞きました。そんな環境の中でも看護師や警察官になりたいという夢を持ち、日々の勉強を頑張っていると聞き、とても感動しました。ストリートバスケットをしている子供たちもとても楽しそうに遊んでいてその姿を見るだけで何か力を貰い、自分ももっと頑張らないといけないと思いました。国が違えば文化や環境も全て異なり、日本での当たり前は全然通用しないことを改めて感じる事ができました。というか、当たり前や普通という言葉自体が曖昧で都合の良い言葉だと思いました。なので今回フィリピンに行けてとてもいい経験ができたと思うし、他の国にも行ってみたいと思いました。最後に、今回このメンバーで行けてとても良かったし、いい思い出がたくさんできました。大学からの支援もして下さり、普段の観光では行けないところにも行けていろいろな発見ができました。本当に6日間ありがとうございました。」

## 第18回瑠璃茶会報告 2023年10月29日(日) 15時～19時30分

山波センターお茶室で茶道裏千家流にて、国際交流の2席と一般席の5席による観月茶会を催しました。

今回で18回目となりますが、コロナ感染により殆どの行事が中止される中、本茶会も2019年以来の開催となりました。

今回は机上の点前と椅子席による“立礼”というお茶会形式に致しましたので、今までより気持も足も楽だったと思います。

本茶会は、一般の方のみならず在留外国人、或いは若いボーイスカウトの方たちにもひらかれたお茶会であることや、一個の専門家の集まりではなく大勢の有志の方々の協力のもとに開催されている事に大きな意義が有るように思えます。

今回の反省は

- ・一席に時間が掛ることで、お茶会の遷延になり後席のお客様をお待たせしたこと
- ・必要諸経費と会費のひらきが大きいこと
- ・趣向と動線を工夫したお茶席の構成を考えること

など有りますが、何より皆さまの力強いご協力により開催でき、多勢お越しく下さいました事に感謝致します。



## ■ みちてる・コーラス・ソサエティ(MCS)

「マスクの中はいつも笑顔、そして明るい歌声♪」と、この4～5年間、コロナ禍も歌い続けた「みちてるコーラスソサエティ」です。なんと元気で素敵なメンバーでしょう。みなさん、いつもパワフルです。

コロナ禍で沈みがちな私たちでしたが、毎年4回、継続して合唱発表をさせていただいていたことが、メンバーの活動の原動力になっていました。次の会では感染が落ち着いて発表できるかもしれないから準備しておこう…と。そして練習していたら、BGMでもいい、DVD放映でもいい、屋外でもいい、皆様に聞いていただきたいと思いが広がり、色々な形で発表を続けさせていただき今日に至りました。

2020年、コロナウイルス感染拡大予防の為、予定の半分を中止にしました。「家でCDかけてしっかり練習しよう」と話すと、返ってくる言葉は「ワクチン接種2回したから大丈夫！」…結局17回集まり、三密を避けて、マスクして練習をしました。

2021年、「大阪の音楽祭」へ出場のお誘いをいただいて、新入会員男性7名女性8名をお迎えし混声合唱への挑戦が始まりました。コロナウイルスは型を変えてその脅威は収束せず、練習を8回中止にしましたが、集まればみんな明るく、自宅練習の成果をセンターで響き合わせました。

2022年6月26日(日)「第12回 音楽祭in大阪」に出場し、安部理事長に選曲していただいた2曲「栄光の架橋」「糸」を声高らかに歌わせていただきました。練習時の不安を消し去る最高の発表ができ、感動で涙するメンバーも沢山いました。テーマ曲「うたごえは心をつなぐ」の通り、メンバーの心が一つになり、全員揃ってステージに立たせていただいたお礼の気持ちがあふれる瞬間でした。

2023年、コロナウイルス感染症が5類に移行し、合唱発表5回、練習は35回させていただきました。毎回歌声以上に響くのはメンバーの明るい笑い声ですが、混声合唱ならではの醍醐味も味わえるようになってきました。

今は、今年6月の音楽祭に向けて「ザ・ローズ」「それが大事」のレベルアップに努めている所です。

今後、施設訪問などの社会貢献活動も視野に入れて、より美しく楽しい合唱になるよう「いつも笑顔、明るい歌声」で励みたいと思います。



▲練習風景



### 2020年～2023年 練習曲目

星影のエール  
高原列車は行く  
長崎の鐘  
新しい道  
今天地の開ける音を聞いて目をさませ  
なだそうそう  
花  
ひかりと慈しみの中で  
未来へ  
四季の歌  
君にあえてよかったね  
栄光の架橋  
糸  
ふるさと  
聖夜  
ジングルベル  
うたごえは心をつなぐ  
故郷の空  
鬼のパンツ  
フニクリフニクラ

## ■ みちてる・ミュージック・ソサイエティ(MMS)

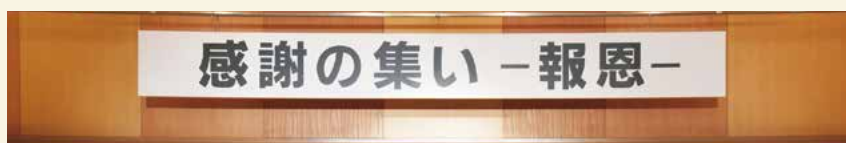
みちてる・ミュージック・ソサイエティは、前回2019年チャリティーフェスティバルの後の新型コロナウイルス感染拡大に伴い、活動を自粛してきました。

メンバーそれぞれの学校、職場、周囲の環境変化で集まれる方々が少なくなってきましたが、昨年5月に新型コロナが5類に移行してからは、徐々に練習しています。

活動としては10月の瑠璃茶会での演奏を始め、2024年初頭の”感謝の集い”でのステージ演奏と、若いフレッシュなメンバーの参加も有りながら楽しい演奏が出来るようになりました。

今後は来年以降に開催する大きなステージ、チャリティーフェスティバルを柱として益々、地域に根付いた音楽活動を通して、本会の理念を全うしてまいりたいと思っています。

多数のご参加をお待ちしております。



## ■ スターライトクラブ(S.L.C)

スターライトクラブは、施設訪問活動や4年に1回開催されます「チャリティーフェスティバル」での創作劇に参加してきました。しかし、ここ数年は新型コロナウイルスの感染状況を考慮して活動の機会がありませんでした。さらに、会員の高齢化の課題もあります。

こうした状況の中、コロナも5類感染症に移行し、社会経済活動も以前の状態に戻りつつありますので、施設訪問は、訪問先の思いを確かめつつ再開したいと考えています。また、演劇は、高齢化や人材確保の問題もあり、これからは、演芸全般のなかから出来るものにチャレンジしてみたいと考えています。皆様の参加をお待ちしています。



施設訪問



## ■ 訃報



理事(お茶会実行委員長) 野宗真子様

2006年の「NPOみちてる」の設立以来、理事(お茶会実行委員長)を務めてこられた野宗真子様が、昨年11月26日にお亡くなりになりました。87年のご生涯でした。

野宗理事様は、当法人ができる前、2003年開催の第1回瑠璃茶会から、常にお茶会の中心的な役割を果たしてこられました。

在りし日のお姿を偲び、これまでのご尽力に深く感謝いたしますとともに、謹んでお悔やみ申し上げます。

